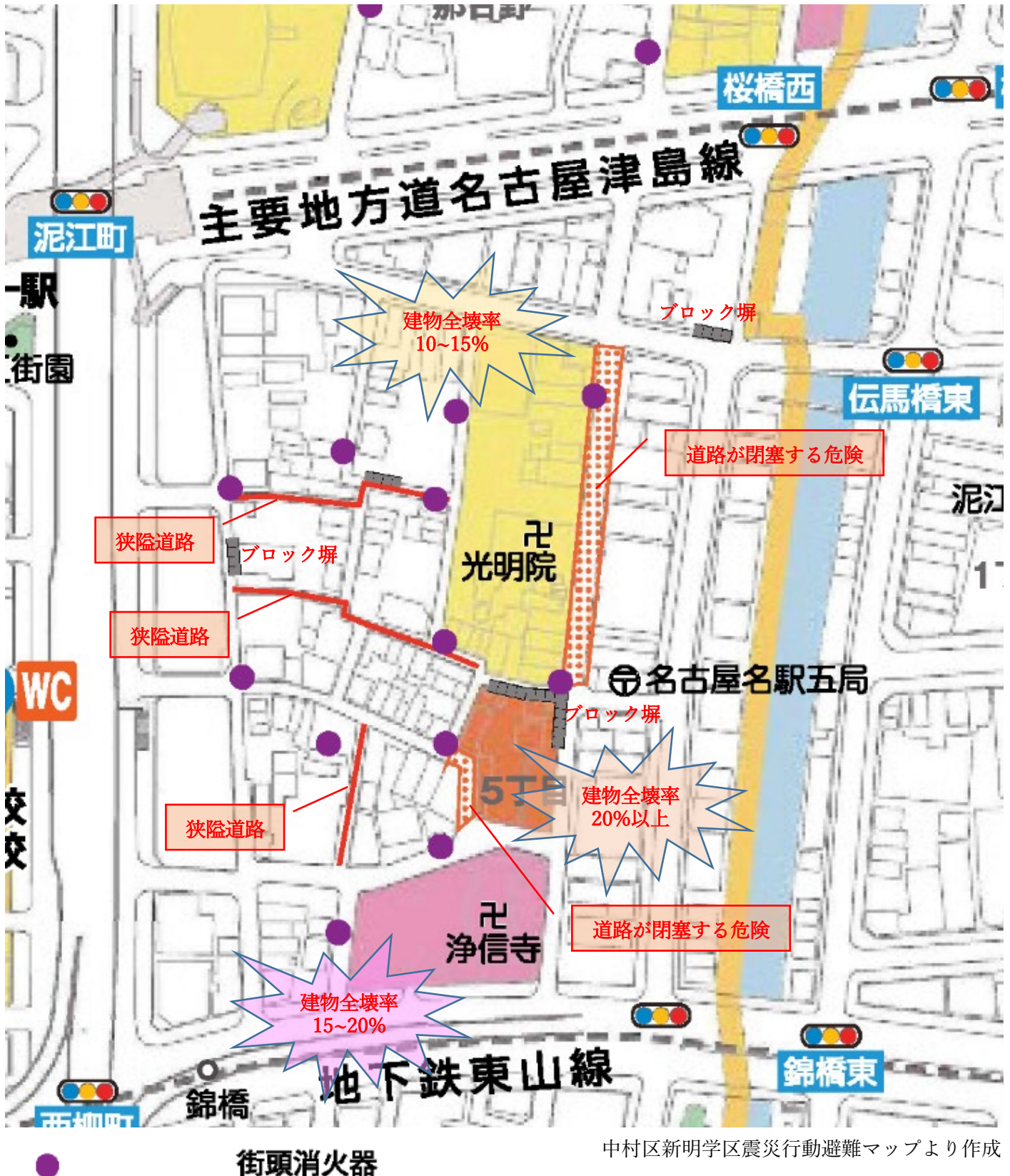


名駅東花車・船入地区まちづくりの課題

1. 防災対策の遅れ

南海トラフ地震は、概ね 100～150 年間隔で繰り返し発生しており、前回の南海トラフ地震（昭和東南海地震（1944 年）及び昭和南海地震（1946 年））が発生してから 70 年以上が経過した現在では、次の南海トラフ地震発生の切迫性が高まっています。

当地区は発災時の避難行動を妨げる要因が多く存在し、これらの解消が急務です。



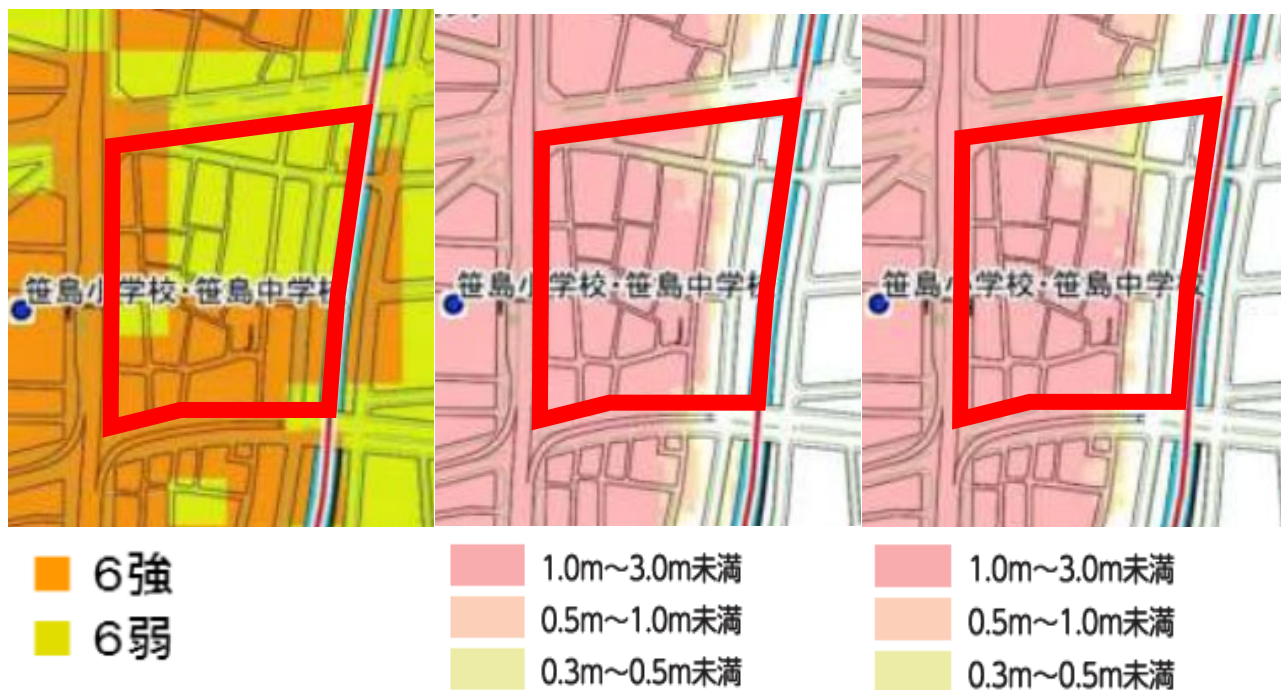
中村区新明学区震災行動避難マップより作成

当地区は地震時、洪水時の危険度が高いため、防災に配慮した建物更新やまちづくりが求められます。

●震度分布

●洪水浸水想定

●高潮浸水想定

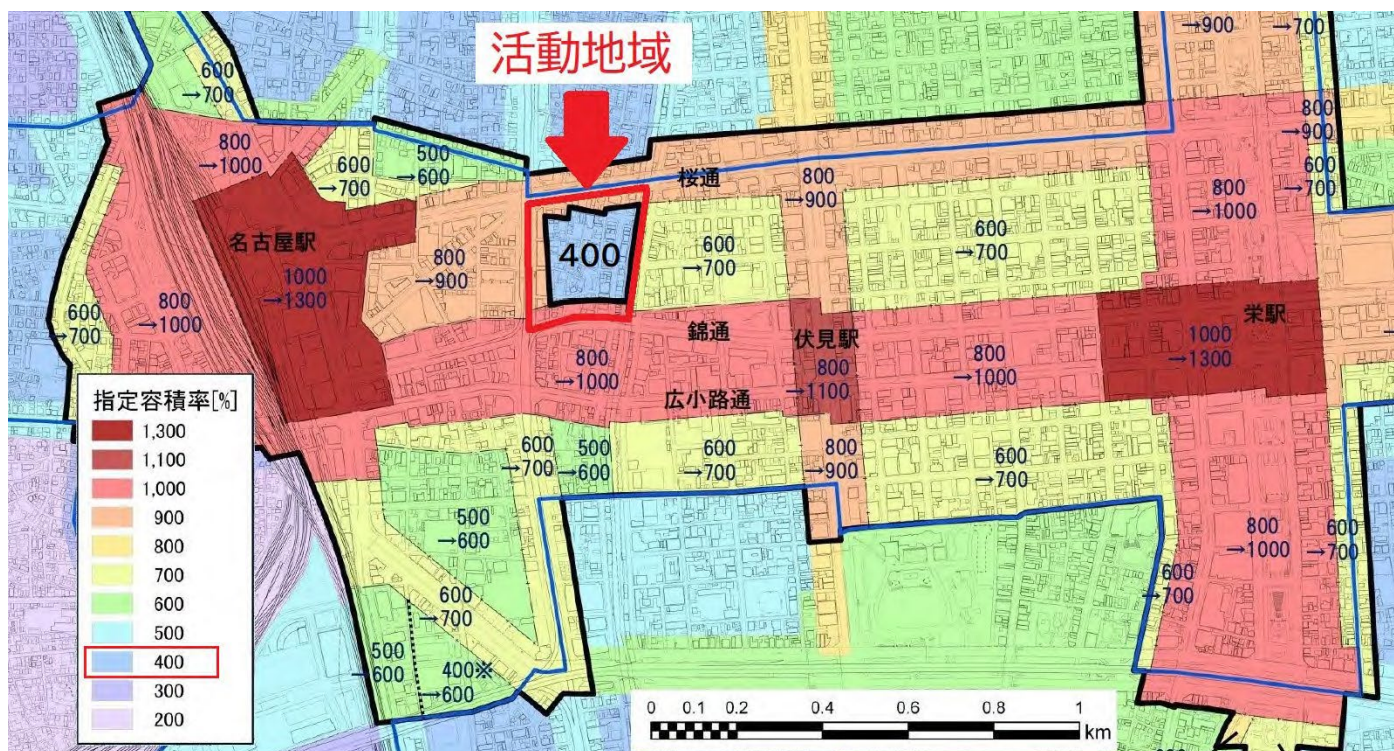


※耐震性の低い建物が倒壊する恐れがあります。 ※洪水・高潮時に1階浸水の恐れがあります。

名古屋市地区防災カルテ中村区新明学区より作成

2. 都心における機能更新の空白化地区

名古屋市都市再生緊急整備地域内にありながら都市機能誘導制度対象区域から外されており、独自に都市機能更新を図っていく必要があります。



名古屋駅・伏見・栄地区都市機能誘導制度地区計画区域・指定容積率変更区域より作成

地域（エリア）での対策が重要

はなぐる まちづくり構想